

「お寺の英語教室:応用編」

●四聖諦（四諦：苦・集・滅・道）

苦諦：

集諦：

滅諦：

道諦：

●八正道

正見

正思惟

正語

正業

正命

正精進

正念

正定

●四法印

諸行無常

諸法無我

一切皆苦

涅槃寂靜

●代表的な思想

中道

縁起

慈悲

【オンライン】
お寺の英語教室
応用編

(公財) 仏教伝道協会 職員/超勝寺 住職
大來尚順

小テスト

合掌

浄財・賽銭

仏

仏教

さとり

仏 = Buddha = ~~Dead~~ Person



覚者 = Awakened One

仏教 = Buddhism

= The way to become a Buddha like Shakyamuni Buddha
an Awakened One

仏道

さとり

Enlightenment (閃き)

Awakening (能動的)

Realization (受動的)

さとり = 言柱

諦 = 真実 = Truth

梵天勸請 (ぼんてんかんじょう)

苦 = 不満の心 = *Dukkha*
Unsatisfactory mind

四 (聖) 諦 = Four Noble Truth

苦諦 The truth of *dukkha*

集諦 The truth of the origin of *dukkha*

滅諦 The truth of the cessation of *dukkha*

道諦 The truth of the path leading to the cessation of *dukkha*

八正道 = Eightfold Noble Path

正見 = Right View (正しい見方)

正思惟 = Right Thought (正しい考え方)

正語 = Right Speech (正しい話し方)

正業 = Right Action (正しい行い)

正命 = Right Livelihood (正しい生活)

正精進 = Right Effort (正しい努力)

正念 = Right Mindfulness (正しい心構え)

正定 = Right Meditation (正しい精神統一/清らかな境地)

正 = 自分の先入観に偏らない
= Authentic

= Bared Attention 裸の注意 = 気づき



法輪
Dharma Wheel

四法印 = 4つの仏教を特徴づける真理

Four Dharma Marks

諸行無常 (しよぎょうむじょう)

諸法無我 (しよほうむが)

一切皆苦 (いっさいかいく)

涅槃寂静 (ねはんじゃくじょう)

=現象
諸行無常

Life is impermanent.

(世の中は永遠には続かない)

Every phenomenon is changing.

(すべての現象は移り変わる)

Everything **including oneself** is Changing.

(自分自身を含めたすべての物事は移り変わる)

=物事

諸法無我

Life is interdependent.

(世の中は相互依存している)

「諸々の法（物事）には我は無い」

→この世に、独立して存在するものはない

No one is alone.

一切皆苦

All things in this world are suffering.

(この世の中のすべての物事は苦しみである)

All contaminated phenomena are the nature of suffering.

(汚染されたすべての現象は苦しみの本質である)

All impure phenomena are of the nature to suffer.

(すべての不純な「目で見た」現象は苦しみの本質である)

涅槃寂静

Nirvana is quiescence.

= 吹き消す
= Blow out

= 静止

The state where one is no longer affected by any delusion is at complete peace.

(如何なる迷いの幻想にも悩まなくなった境地は平和である)

中道

Middle Path (Way)

サンスクリット語「Madhyamā-pratipad」

極端な考え方に偏らないこと

Avoiding an extreme way of thinking.

縁起 (因縁生起)

Pratītya-samutpāda

Dependent Co-Arising

依存する 同時に 起っていること

『「空」論から読み解く仏教』（春秋社）正木晃 著

= 空 śūnya 龍樹 (西暦150~250年頃の人)

時代の変化や地域の状況、仏教学派、宗派の分派によってさまざまな理解や解釈が生み出された結果、多様な人々によって多様な理解が語り合われてきた。

Emptiness, Universe, etc.

慈悲

Compassion

慈

悲

Maitrī
樂を与える

Karuṇā
苦を抜き取る

抜苦

与樂

Taking away suffering and giving a peace.

第1回 お寺の英語教室

観光編

2020年の東京オリンピックの開催が決定して以来、日本では外国人観光客が年々増加していることは誰もが知るところだと思います。JNTO(日本政府観光局)のデータによると、昨年は約3,100万人の訪日外客数があったそうです。

これを機に日本社会では来日される外国人観光客へのおもてなしとして様々な取り組みがなされています。その代表的な一つとしてあげられるのが、標識やレストランのメニューなどの外国語訳です。有名な観光スポットや公共施設で必要だと思われる場所では、英語をはじめとする諸外国語の表示や説明が掲示されるようになりました。

今日、外国語を使って日本のことを紹介する機会が増えています。これは仏教寺院でも同じことではないでしょうか。そんな状況を背景に、本連載では、お寺で役立つ英語に特化した英語教室を開講します。

第1回目は、観光編です。寺院巡りは日本観光の代表とも言えるものです。全国の観光寺院は言うまでもなく、移動手段の発達やSNS等の情報拡散の影響もあり、今や外国人観光客が日本全国の一般寺院にもふらっと参拝される時代です。

決して悪気があるわけではないですが、外国人観光客は寺院の参拝の仕方やマナーがわからず、寺院に迷惑をかけてしまうということも多発しているようです。説明を試みても、なかなか外国語ですぐに説明するのも容易なことではありません。そんな状況の時に役立つ英語のフレーズや英語標識を紹介します。

●このお寺は、○○宗のです。

This ○○ temple belongs to the ○○ denomination.

例:この超勝寺は浄土真宗本願寺派です。

This Choshoji temple belongs to Jodo Shinshu Hongwanji denomination.

主な宗派表記一例

天台宗 Tendai-shu Denomination	真言宗 Shingon-shu Denomination
浄土宗 Jodo-shu Denomination	浄土真宗 Jodo Shin-shu Denomination
臨済宗 Rinzai-shu Denomination	曹洞宗 Soto-shu Denomination
日蓮宗 Nichiren-shu Denomination	

●本堂に上がる時は靴を脱いでください。

Please remove your shoes before entering the Buddha Hall.

●ご本尊に合掌してください。(合掌しましょう)

As a sign of respect, please place your palms together (as in prayer) when facing the image of the Buddha.

主な御本尊外国語表記一例

御本尊名	サンスクリット語	英語
釈迦如来	Tathāgata Shakyamuni	Buddha of Shakyamuni
毘盧舎那如来	Tathāgata Vairocana	Buddha of Vairocana
大日如来	Tathāgata Mahāvairocana	Buddha of Mahāvairocana
阿弥陀如来	Tathāgata Amitābha Tathāgata Amitāyus	Amida Buddha Buddha of Immeasurable Light Buddha of Immeasurable Life
薬師如来	Tathāgata Bhaisajyaguru	Medicine Buddha
不動明王	Acalanātha	Immovable Wisdom King

●仏さまとお寺にお賽銭を入れてください。

You are welcome to make a monetary offering to the Buddha and this temple.

●どうぞご自由にお焼香をしてください。

Please feel free to burn incense here.

●寺院施設内での飲食は控えてください。

Please do not partake of any food or beverages within the temple precincts.

●境内及び寺院施設内での喫煙は禁止です。

Smoking is prohibited within all temple buildings and grounds.

●境内では静かにしてください。

Please refrain from loud talking while on the temple grounds.

●写真を撮らないでください。

Photo-taking is not allowed.

●拝観料をお支払い下さい。

Please pay the requested admission fee.

●拝観無料です。

Free admission.

●開門は○○時、閉門は○○時です。

The temple is open from ○○ AM until ○○ PM.

例:開門は6時、閉門は6時です。

This temple is open from 6:00 AM until 6:00 PM.

観光に役立つ便利冊子

『Guide to Buddhism in Japan』

(公財)全日本仏教会加盟団体の(公財)仏教伝道協会では「Guide to Buddhism in Japan」を無料で配布しています。「仏教とはいったいどういう宗教なのか?」「仏教Q&A」など、写真とイラストを使ってわかりやすく英語で解説されており、宗派を超えた仏教入門に最適な1冊です。寺社仏閣の観光客に最適な冊子です。

『Messages from Buddha』

同協会は、ブツダのおしえのエッセンスを凝縮した英語の冊子も無料で配布しています。中国語版(簡体語・繁体語)と韓国語版も用意されているので、是非ご利用になられてはいかがでしょうか。

ご興味のある方は、(公財)仏教伝道協会ホームページをご覧ください。

大來 尚順 (おおぎ しょうじゅん)

・浄土真宗本願寺派 超勝寺 副住職
・一般社団法人 寺子屋ブツダ 理事
・著述家
・翻訳家

プロフィール

1982年、山口市生まれ。龍谷大学卒業後に渡米。カリフォルニア州バークレーの米国仏教大学院に進学し修士課程を修了。その後、同国ハーバード大学神学部研究員を経て帰国。僧侶として以外にも通訳や仏教関係の書物の翻訳なども手掛け、執筆・講演・メディアなどの活動の場を幅広く持つ。

書籍:『カンタン英語で浄土真宗入門』(法蔵館)、『小さな幸せの見つけ方』(アルファポリス)、『訳せない日本語 日本人の言葉と心』(アルファポリス)他多数

第2回 お寺の英語教室

基礎編

お寺で役立つ英語に特化した英語教室の第2回は、基本編です。

外国人観光客からの仏教についての突然の質問にすぐに英語で説明するのも容易なことではありません。

今回は、そんな状況の時に役立つ英単語や英語フレーズを紹介します。

●知っておきたい仏教英単語

仏教	Buddhism	坐禅	(Sitting) Meditation
仏(覚者)	Buddha (Awakened One/Enlightened One)	念仏	Reciting the Name of Amida Buddha
本尊	Principle Image of the Buddha.	写経	Sutra Copying
仏像	Buddha Statue	護摩	Fire-Offering (Homa) Ritual
仏壇	Buddhist Alter	法要	Buddhist Service
本堂	Main Hall	葬式	Funeral
宗祖	The Founder of ○○○○ Denomination	仏前結婚式	Buddhist Wedding
僧侶	Buddhist monk/priest/minister	合掌	Place Your Palms Together
住職	Chief/Head monk/priest/minister	焼香	Burning Incense
数珠(念珠)	Buddhist Beads	賽銭	Monetary Offering
お経	Sutra	布施	Donation
読経(勤行)	Chanting the Sutra	精進	Effort/Hard Practice

●仏教の基本を英語で説明するコツ！！

<レッスン①:「仏教」を英語で説明する>

「仏教」は、英語では「Buddhism」と表現しますが、もう少し丁寧に説明するならば、「仏に成る教え」という意味をきちんと踏まえ、以下のような表現ができます。

お釈迦さまのようにブッダ(覚者)に成る道(生き方)

The way to become a Buddha (Awakened One) like Shakyamuni Buddha.

<レッスン②:「さとり」を英語で説明する>

ブッダ(覚者)になるということは、それは「さとり」を得るということです。

Becoming a Buddha means to attain “○○○○”(Satori).

「さとり」は、以下のようにいくつかの英訳があります。すべて「さとり」を意味しますが、ニュアンスがそれぞれ異なります。

Enlightenment	(閃きの)
Awakening	(自動的)
Realization	(受動的)

※実は「さとり」は英語になっており、「Satori」と表記されることがあります。特別な言葉ですので英語には訳せないということだと思います。しかし、これではいつまでたっても西洋の方に「さとり」を説明することができないので、ご自身の立場の教義に近い表現を使用して下さい。

<レッスン③:「さとり」の内容を英語で説明する①>

「さとり」とは、「四聖諦」としてまとめられています。

The “○○○○”(Saotri) is summarized as the Four Noble Truths.

「四聖諦」の英訳は「Four Noble Truths」となります。ではその内容はというと、「苦諦」「集諦」「滅諦」「道諦」となります。

英訳は以下の通りです。

四聖諦 **Four Noble Truths**

苦諦 **The Truth of Dukkha (Unsatisfactory Mind)**
(人生とは)不満足という苦だらけであるという真実

集諦 **The Truth of the Origin of Dukkha**
その苦しみには根源があるという真実

滅諦 **The Truth of the Cessation of Dukkha**
その苦しみを停止することができるという真実

道諦 **The Truth of the Path Leading to the Cessation of Dukkha**
その苦しみを停止できるように導いてくれる道があるという真実

ポイント! ここでポイントなのが、「苦」の解釈です。一般的には、「苦」は「Suffering」と英訳されます。しかし、「仏教」の「苦」とは、パーリ語「Dukkha」翻訳で、元来の意味は「不満足的心」です。英語では「Unsatisfactory Mind」となります。つまり、「仏教」では「不満足的心」を「苦」として解釈し、解決していくことが「仏教」の基本なのです。

<レッスン④:「さとり」の内容を英語で説明する②>

「不満足的心」という「苦」を停止させる方法としてお釈迦さまが提示されたのが、「八正道」(正見・正思惟・正語・正業・正命・正精進・正念・正定)です。

In order to terminate the unsatisfactory mind (dukkha), Shakyamuni Buddha provided us with the Eightfold Noble Path: Right View, Right Thought, Right Speech, Right Conduct, Right Livelihood, Right Effort, Right Mindfulness, and Right Concentration.

八正道 **Eightfold Noble Path**

正見	Right View	(正しい見方)
正思惟	Right Thought	(正しい考え)
正語	Right Speech	(正しい話し方)
正業	Right Conduct	(正しい行い)
正命	Right Livelihood	(正しい生活)
正精進	Right Effort	(正しい努力)
正念	Right Mindfulness	(正しい心構えの)
正定	Right Concentration	(正しい精神集中)

この道に従って日々の生活を過ごしていけば、私たちもお釈迦さまと同じようにブッダ(覚者)になれるかもしれません。

If we follow this path in our daily live, we might be able to become a Buddha (Awakened One) like Shakyamui Buddha.

よって、「仏教」とは「仏に成る道(生き方)」なのです。

Therefore, Buddhism is the way to become a Buddha (Awakened One).

大來 尚順 (おおぎ しょうじゅん)

- ・浄土真宗本願寺派 超勝寺 住職
- ・一般社団法人 寺子屋ブッダ 理事

プロフィール

1982年、山口生まれ。龍谷大学卒業後に渡米。カリフォルニア州パークレーの米国仏教大学院に進学し修士課程を修了。その後、同国ハーバード大学神学部研究員を経て帰国。僧侶として以外にも通訳や仏教関係の書物の翻訳なども手掛け、執筆・講演・メディアなどの活動の場を幅広く持つ。

書籍:「カンタン英語で浄土真宗入門」(法蔵館)、「小さな幸せの見つけ方」(アルファポリス)、「訳せない日本語 日本人の言葉と心」(アルファポリス)他多数



第3回

お寺の英語教室

思想編



お寺で役立つ英語に特化した英語教室の第3回は、思想編です。

今回は、外国人観光客から仏教について深い質問をされたとき、もしくはこちらから踏み込んで仏教の思想について説明したいときに役立つ英語フレーズを紹介します。

仏教の代表的な思想

「中道」： Middle Path (Way)

<解説>

「中道」は、英語では「Middle Path (Way)」と表現します。しかし、ただ「Middle Path (Way)」と説明するのでは伝わりません。サンスクリット語では「Madhyamā-pratipad」と表現し、これは「極端な考え方に偏らないこと」(Avoiding an extreme way of thinking)を意味することを説明した上で、「Middle Path (Way)」と紹介して下さい。

「因縁生起」(縁起)： Dependent Co-Arising

<解説>

「因縁生起」(縁起)は、サンスクリット語では「Pratītya-samutpāda」といい、「原因に縁(よ)って結果が起きる」という意味を踏まえ、英語では「Dependent Co-Arising」と訳されます。これは、様々なことが同時に(Co)生じており(Arising)、それらすべてが依存し合って(Dependent)現象が成り立っているということを意味します。純粋に「結果には原因がある」という意味に注目し、「Dependent Origination」(起源に依存する)と表現することもできます。

「空」： Emptiness

<解説>

「空」は、サンスクリット語では「Śūnyatā」といい、「固定的実体」もしくは「我」は存在しないことを意味し、この意図を汲んで「Emptiness」もしくは「Non-being」と英訳されます。考え方として、「空」は「因縁生起」(縁起)の別の表現とも言えますので、「"Emptiness" has the same meaning as "Dependent Co-Arising"」(「空」は「因縁生起」と同じ意味)とも説明できます。

「四法印」： Four Marks of the Dharma

<解説>

「四法印」は大乗仏教を特徴づける「諸行無常」「諸法無我」「涅槃寂靜」「一切皆苦」の四つの教えで、仏教か非仏教かを判断する真実の(Dharma)物差しとなる印(Mark)です。よって、英語では「Four Marks of the Dharma」(四つの真実の印)と表現します。「Mark」の代わりに同意の「Seal」を使うこともできます。

仏教の根幹ともいえる四つの印の教えは次の通りです。

●諸行無常： Life is Impermanent

<解説>

「諸行無常」は、一般的には英語で「Life is Impermanent」(いのちは永久には続かない)と表現されます。しかし、用語の意味を抽出すると「Every phenomenon is changing」(すべての現象は移り変わる)とも表現できます。さらに解釈を発展させれば、「Everything including oneself is constantly changing」(自分自身を含めたすべての物事は移り変わる)とも表現できます。

●諸法無我： Life is Interdependent

<解説>

「諸法無我」は、「諸々の法(物事)には、(永遠的で不変な本性である)我は無い」と書き下し、「物事はすべて依存し成立しており、独立して存在しているものはない」という意味を持つことから、「Life is Interdependent」(いのちは相互依存している)と表現します。

●涅槃寂靜： Nirvana is Quiescence

<解説>

「涅槃寂靜」は「Nirvana is Quiescence」(涅槃は静寂である)と英訳されます。「涅槃」の英訳は、サンスクリット語の「Nirvana」をそのまま使用します。これはすでに英語としても認知されています。しかし、元来の意味は煩悩の火を「吹き消すこと」を意味し、悩みや苦しみから解放され、何にも心を掻き立てられることのない「境地」を指します。よって、「涅槃寂靜」は「The state where one is no longer affected by any delusion and is at complete peace」(如何なる迷いの幻想にも悩まされなくなった境地は平和である)とも英訳できます。

●一切皆苦： All Impure Phenomena are of the Nature to Suffer

<解説>

「一切皆苦」は、英語で直訳すると「All things in this world are suffering」という表現になりますが、これでは本来の意図が簡単には伝わりません。私たちの「煩惱によって曇った目で見れば」という視点を反映し、「All impure phenomena are of the nature to suffer」(すべての不純な「目で見た」現象は苦しみの本質である)と英訳します。「苦」(不満足の心)というのは、自分自身で創り出しているということを強調することで、意味も分かりやすくなります。

「四苦八苦」： Four Sufferings and Eight Sufferings

※「Suffering」は「Unsatisfactory Mind」の意味

<解説>

「仏教」の「苦」とは、パーリ語「Dukkha」の翻訳で、元来の意味は「不満足」の心です。英語では「Suffering」として表現されますが、意味は「Unsatisfactory Mind」(不満足)の心であることを念頭に置くことが重要です。その上で、「四苦」は英語で「Four Sufferings」と表現し、生(Birth)・老(Aging)・病(Sickness)・死(Death)と表現します。この「四苦」に「愛別離苦」「怨憎会苦」「求不得苦」「五蘊盛苦」の四つの苦を 加えて「八苦」(Eight Sufferings)となります。

●愛別離苦： The Suffering of Departing from Persons or Situations One Loves

(愛する人や好ましい状況からいつかは離れなければならない苦しみ)

●怨憎会苦： The Suffering of Meeting Up with Persons or Situations One Dislikes

(嫌で仕方のない人や状況にも出遭わなければならない苦しみ)

●求不得苦： The Suffering of Not Getting What One Seeks

(欲しいものが手に入らない苦しみ)

●五蘊盛苦： The Suffering of Becoming Attached to the Five Elements of Self

(自己を形成する 五つの要素に執着する苦しみ)

「五蘊」とは、人間の肉体と精神を構成する五つの要素の意味なので、英語では「Five Elements of Self」(自己を形成する五つの要素)と表現します。その五つの要素は以下の五感を指します。

「色」(Matter): すべての物質を指すが、ここでは「身体」の機能

「受」(Sensation): 物事を見る、外界からの刺激を受ける「心」の機能

「想」(Perception): 見たものについて何事かをイメージする「心」の機能

「行」(Mental formation): イメージしたものについて、何らかの意志判断を下す「心」の機能

「識」(Discernment): 外的作用(刺激とイメージ)、内的作用(意志判断)を 総合して状況判断を下す「心」の機能

意識するならば、「五蘊」は「人生の経験」(Life Experience)ともいえます。つまり、「五蘊盛苦」は自分の経験によって得た情報を絶対視することで、「不満足」の心が増大することを示唆します。よって、「The suffering of becoming attached to one's experience」とも英訳できます。

大來 尚順 (おおぎ しょうじゅん)

・浄土真宗本願寺派 超勝寺 住職
・一般社団法人 寺子屋ブツダ 理事

プロフィール

1982年、山口市生まれ。龍谷大学卒業後に渡米。カリフォルニア州パークレーの米国仏教大学院に進学し修士課程を修了。その後、同国ハーバード大学神学部研究員を経て帰国。僧侶として以外にも通訳や仏教関係の書物の翻訳なども手掛け、執筆・講演・メディアなどの活動の場を幅広く持つ。

書籍: 「超カンタン英語で仏教がよくわかる」(扶桑社)、「カンタン英語で浄土真宗入門」(法蔵館)、「訳せない日本語 日本人の言葉と心」(アルファポリス)他多数

第4回

お寺の英語教室

仏像編



お寺で役立つ英語に特化したお寺の英語教室の第4回は、仏像編です。

今回は、外国人観光客に仏像について説明するときに役立つ英語の簡単な解説を紹介します。主な御本尊の紹介文の一例です。参考にいただければ幸いです。

※仏像の日本語解説は、「仏像ワールド」(<https://www.butuzou-world.com/>)を参考にしています。

釈迦如来

仏教の開祖です。釈迦牟尼は古代インドの小国、釈迦族の王子でした。本名はゴータマ=シッタタです。妻や子供もいた実在の人物です。釈迦如来とはその釈迦が悟りを得た姿をあらわしています。

<特徴>

特徴は螺髪と呼ばれる小さくカールした髪の毛です。装飾品は一切身に付けていません。釈迦が説法を説いている姿が一般的です。ほかには、誕生像、苦行像、降魔像、涅槃像があります。

Tathāgata Shakyamuni(Shakyamuni Buddha)

The founder of Buddhism, Shakyamuni was a prince of Shakya clan which ruled a small kingdom within ancient India. His given name was Siddhārtha Gautama and he had a wife and child. The statue of Tathāgata Shakyamuni represents Shakyamuni after he became awakened or Enlightened.

<Features>

A distinguishing feature is the spiral hair called *rahotsu* in Japanese. The figure is portrayed without any ornaments. The statue generally represents Shakyamuni as he is delivering a Dharma (teaching) sermon. Additionally, there are also statues representing His birth, practicing ascetics, struggling against the devil, and attaining Nirvana (Enlightenment).



© 田中ひろみ

毘盧舎那如来

「毘盧遮那」は、サンスクリット語のVairocanaの音写で、「輝きわたるもの」を意味します。太陽を司る仏です。釈迦は真理を悟り、それを仏法として人々に伝えました。その真理そのものが毘盧舎那如来です。

<特徴>

蓮華台座や光背には多くの釈迦仏が描かれており、教を説いているとされています。一般的には、毘盧舎那如来は右手で施無畏印、左手で与願印を結んでいます。

Tathāgata Vairocana(Vairocana Buddha)

The Sanskrit term "Vairocana" means "the Luminous One". Tathāgata Vairocana is the Buddha that rules the sun. Although Shakyamuni awakened to the truth and preached it as the Buddha Dharma (the teaching or truth), the truth itself is Tathāgata Vairocana.

<Features>

There are many portrayals of Shakyamuni Buddha depicted on the lotus pedestal and halo. This represents that the Shakyamuni Buddha is preaching to the world. Generally, Tathāgata Vairocana's right hand is shown with a symbolic positioning of the fingers called *Semu-in* (mudra for bestowing fearlessness), and the left hand is depicted with the fingers in a *Yogan-in* (wish-granting mudra).



© 田中ひろみ

大日如来

太陽を司る毘盧舎那如来がさらに進化した仏です。「大日如来」は、サンスクリット語ではMahāvairocanaといい、「大なる日輪」という意味です。すべての命あるものは大日如来から生まれたとされ、釈迦如来も含めてほかの仏は大日如来の化身と考えられています。

<特徴>

大日如来は装飾品や宝冠を付けています。また、螺髪ではなく、髪を結い上げています。金剛界と胎藏界の姿ではそれぞれ異なる印を結んでいます。金剛界では智拳印を結び、胎藏界では定印を結んでいます。

Tathāgata Mahāvairocana(Mahāvairocana Buddha)

Tathāgata Mahāvairocana is an evolved form of the Tathāgata Vairocana that rules the sun. The Sanskrit term "Mahāvairocana" means "Great Sun". It is believed that every living things were born from the Tathāgata Mahāvairocana and other Buddhas including the Tathāgata Shakyamuni were his incarnation.

<Features>

Tathāgata Mahāvairocana wears ornaments and a jeweled crown. This statue does not have the spiral hair called *rahotsu*, but the hair is flowing in an upward fashion. Tathāgata Mahāvairocana's hands are shown in the *Chiken-in* (knowledge-fist mudra) in the Diamond World (Skt. vajradhātu, Jpn. kongōkai) and makes *Jo-in* (meditation mudra) in the Womb or Matrix World (Skt. garbhadhātu, Jpn. taizōkai).



© 田中ひろみ

阿弥陀如来

無量の寿と光を持つことから無量寿如来、無量光如来ともいいます。西方極楽浄土の教主です。「南無阿弥陀仏」を唱えるあらゆる人々は必ず浄土に生まれることができるとされ、広く民衆から信仰されています。

<特徴>

釈迦如来と同じく装飾品は一切ありません。特徴は、来迎印もしくは摂取不捨印と呼ばれる印です。

Amida Buddha

Tathāgata Amitāyus(Buddha of Immeasurable Life) Tathāgata Amitābha(Buddha of Immeasurable Light)

It is said that Amida Buddha has immeasurable life and light, therefore, Amida is called Tathāgata Amitāyus (Buddha of Immeasurable Life) as well as the Tathāgata Amitābha (Buddha of Immeasurable Light) and is recognized as the Buddha of the Western Pure Land of Bliss. All people who recite the name of Amida Buddha ("Namu Amida Butsu") can be born into the Pure Land. Amida Buddha is widely worshipped by people.

<Features>

Just like the statues of Tathāgata Shakyamuni, Amida Buddha is shown without any ornaments. A distinguishing feature is the symbolic finger gestures called *Raigo-in* (mudra of coming to welcome the deceased) or *Sesshu Fusha-in* (mudra of grasping and never abandoning).



© 田中ひろみ

薬師如来

東方浄瑠璃世界の教主で、正式名を薬師瑠璃光如来といいます。病気を治して衣食住を満たすという「十二の大願」を立て、生きている間に願いを叶えてくれます。現世において、やすらぎを与えてくれる仏です。

<特徴>

薬壺を左手に持ち、右手の薬指を前に出しています。ほかの装飾品などは持ちません。ただし、奈良時代までの造形は薬壺を持たない場合が多く、釈迦如来と区別がつきにくいとされています。

Tathāgata Bhaiṣajyaguru(Medicine Buddha)

The founder of the Eastern Pure Land of Lapis Lazuli. Tathāgata Bhaiṣajyaguru established the Twelve Great Vows for all sentient beings to heal their diseases and satisfy their food, clothing and housing needs and fulfills people's wishes during living lifetime. This Buddha provides us benefits and peace in this world.

<Features>

This statue holds a gallipot with the left hand and positions the third finger of right hand forward. The statue is not depicted with any other ornaments. However, most Tathāgata Bhaiṣajyaguru statues that were created before the Nara Period (710-794) do not have a gallipot. Therefore, it may be a bit difficult to distinguish the Tathāgata Bhaiṣajyaguru from the Tathāgata Shakyamuni.



© 田中ひろみ

不動明王

インド神話のシヴァ神の別名です。語源は「動かない守護者」を意味します。シヴァは暴風雨の威力を神格化したもので、破壊的な災害を起こす半面、雨によって植物を育てます。その破壊と恵みの両面性を持って、仏法の障害となるものに対しては怒りを持って屈服させ、仏道に入った修行者には常に守護をして見守ります。

<特徴>

背が低く、少し太めの童子型の造形が多く、怒りの表情をしています。目は天地眼といって右目を天に左目を地に向け、口は牙上下出といって右の牙を上、左の牙を下に出しています。炎の光背を背にし、手には剣と羂索を持っています。剣は大日如来の智慧の鋭さを表現し、羂索は煩惱を縛り悪の心を改心させる捕縛用の縄を意味します。

Acalanātha(Immovable Wisdom King)

Acalanātha is said to be an assumed name of Shiva in Hindu mythology and means "Immovable Guardian". Shiva is a deification of the power of storms; destructive disasters and grace to grow plants. With both destructive and graceful natures, Acalanātha makes obstacles surrender through anger and always protects and watches over all Buddhist practitioners.

<Features>

Many statues of Acalanātha are often depicted as a short and pudgy child with somewhat angry facial expressions. The right eye directs the heavens, and the left eye directs the earth (Jpn. *Tenchigen*). The fang emerging from the right side of the mouth also oversees the world above and the fang on the left side oversees the earth below (Jpn. *Gajogeshutsu*). The statue also has a fire halo and holds a sword and rope called *kenjaku*. The sword represents the sharpness of Tathāgata Mahāvairocana's wisdom, and the *kenjaku* rope captures one's worldly passions or self-centered calculations and rectifies the evil heart.



© 田中ひろみ

大來 尚順 (おおぎ しょうじゅん)

- ・浄土真宗本願寺派 超勝寺 住職
- ・一般社団法人 寺子屋ブツダ 理事
- ・著述家
- ・翻訳家

プロフィール

1982年、山口市生まれ。龍谷大学卒業後に渡米。カリフォルニア州パークレーの米国仏教大学院に進学し修士課程を修了。その後、同国ハーバード大学神学部研究員を経て帰国。僧侶として以外にも通訳や仏教関係の書物の翻訳なども手掛け、執筆・講演・メディアなどの活動の場を幅広く持つ。

書籍：『超カンタン英語で仏教がよくわかる』(扶桑社)、『カンタン英語で浄土真宗入門』(法蔵館)、『訳せない日本語 日本人の言葉と心』(アルファポリス)他多数